

# 飯伊 産業経済動向

No.458 2017/5  
(29. 6. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	4,310	枚	35.2	%	△	4.1 %
	金額	5,306,503	千円	51.6	%		5.9 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 1 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 10 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	9	件	(前月 10 件)		(前年同月 5 件)	
	飯伊	0	件	(前月 2 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(4月)		32	戸	△	53.6 %	△	13.5 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(4月)		1.46	倍	(前月 1.47 倍)		(前年同月 1.26 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,928	台		2.7 %	△	8.4 %
	中古車	563	台	△	21.5 %	△	3.9 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(4月)	新車	3,415	台	△	48.5 %		17.6 %
	中古車	1,677	台		50.0 %		18.9 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	119,904	台		8.0 %		2.6 %
	出	119,690	台		7.3 %		2.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	79,463	台		8.1 %		3.9 %
	出	77,325	台		8.0 %		5.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	21,409	台		29.3 %		27.7 %
	出	24,502	台		28.5 %		36.9 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	47,169	台		16.0 %		5.8 %
	出	47,899	台		12.6 %		8.3 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		122	件	△	3.9 %	△	11.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		8	件	(前月 7 件)		(前年同月 1 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	28,602	人		15.6 %		1.2 %
	飯田～名古屋	18,241	人		5.4 %		7.7 %
	飯田～長野	10,568	人		7.1 %		2.0 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,319	人	△	2.6 %	△	0.1 %
	右回り	3,331	人	△	0.1 %		4.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



100%植物性インキ  
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を  
使用しています

# 概況

## 製造業

5月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス18.8で、前月から5.0ポイント上昇。翌月予測はプラス9.4で、前月から12.8ポイント下降している。

電気、精密機械器具の販売の前月比は、やや減少～横ばい。一部に、受注が前月比、前年比とも増加しており、景況感が好転した業者も見られた。半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売は、前月比、前年比ともやや増加～増加、概ね景況感も好転している。産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、減少との声も複数聞かれるが、横ばい～やや増加との声が多く、景況感が好転した業者も複数見られた。建築用金属製品の売上は、前月比やや増加、前年比は減少。「まだ弱い」ながらも「多少引合が増加」していることもあり、景況感は好転との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、総じて景況感に動きは見られない。小型電磁機器の販売の前月比は概ね横ばい。受注が前月より増加していることもあり、景況感が好転した業者も見られた。FA関連モーターでは、販売は「稼働日数の影響で前月比減少」も、受注が「産業機械向け、車載向けともに微増で推移」しており、景況感も好転との声が寄せられた。光学機器の受注、販売は、前月比横ばい、前年比は業者により増減分かれるが、景況感が好転した業者は見られない。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比やや減少～横ばい、前年比はやや増加との声が複数聞かれたが、「消費動向にあまり変化はない」など、景況感が好転した業者は見られない。水引製品の販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばいとの声が多い。「6月からお盆用品の出荷が始まり、8月下旬までは忙しい」という。漬物の販売は、前月比、前年比ともやや減少も、「市場動向で目立ったものは感じないが、当月は観光向け商材が昨年より動いた感がある」との声が寄せられた。

## 建設業

5月の建設業の景況DIは、プラス6.7で、前月から45.2ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス18.8で、前月より11.1ポイント下降している。

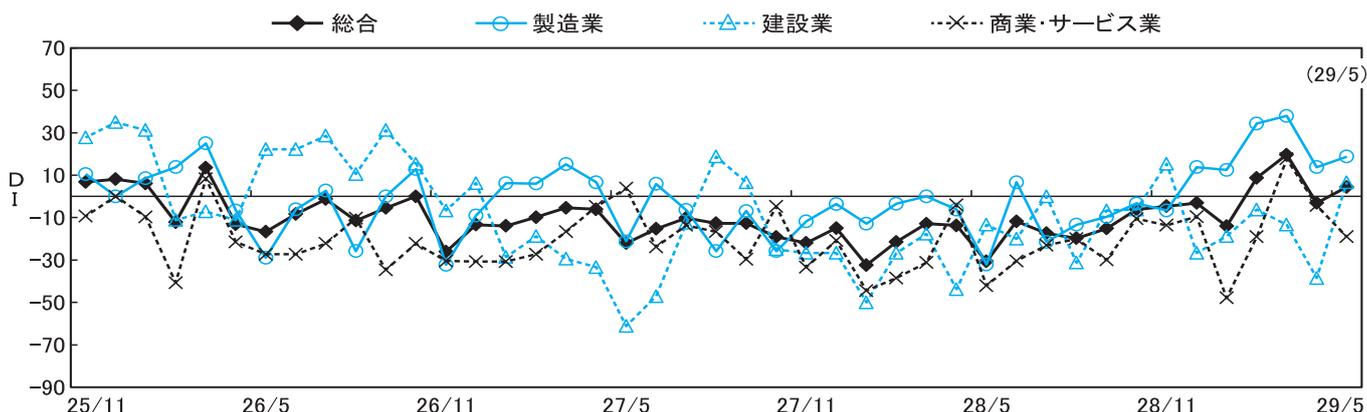
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.6億円で、前月比は369%増加も、前年比は5%減少している(6月5日調査時点。電設工事、他地域業者落札分などを含む)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減相半ばする。「公共工事が少し出始め、若干元気になっている」などやや増加との声も複数あるが、こうした業者からも「工事件数は少ない状況に変化はない」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者は多くはない。

民需の住宅着工戸数(4月)の住宅着工戸数は32戸。前月比54%減少、前年比も14%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も見られるが、「民間は大型工事が少なく、戸建住宅も停滞」など、景況感の悪化には至らないまでも、好転していないとの声が多い。

## 商業・サービス業

5月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス19.0と、前月より14.7ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス10.0で、前月より10.0ポイント下降している。食料品の売上は、前月比やや増加との声が多いが、景況感の好転には至らない。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感の悪化には至らないとの声。家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。電化製品の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい、前年比は業者により増減分かれる。OA機器の売上は、前月比減少、前年比やや増加との声が寄せられた。衣料品の売上は、前月比やや減少、前年比は業者により増減分かれる。娯楽用品では、「ゴールデンウィークの影響で前月比やや増加。前年比は同じ」との声。土産物関連の売上は、前月比やや増加～増加。前年比は減少との声も。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比3%増加も、前年比は22%減少。4月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比49%減少も、前年比は18%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。市内料理店の売上の前月比は、業者により増減分かれる。昼神温泉の売上は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。「天候のお蔭で桜、花桃の開花期間が長く、前年より集客があった」などの声が寄せられたが、多くの業者で景況感の好転に至っていない。タクシーの売上は、前月比やや減少も、前年比は増加との声が寄せられた。

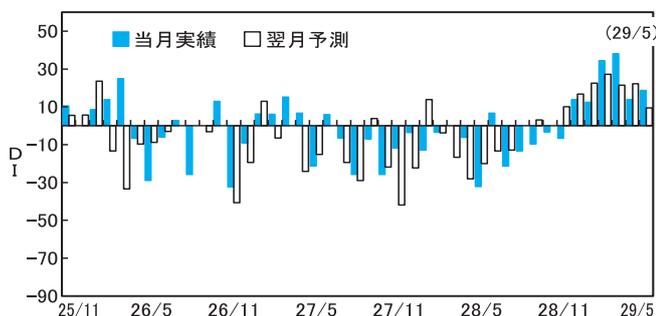
飯伊地区景況DI (本誌調査)



# 製造業

## 地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



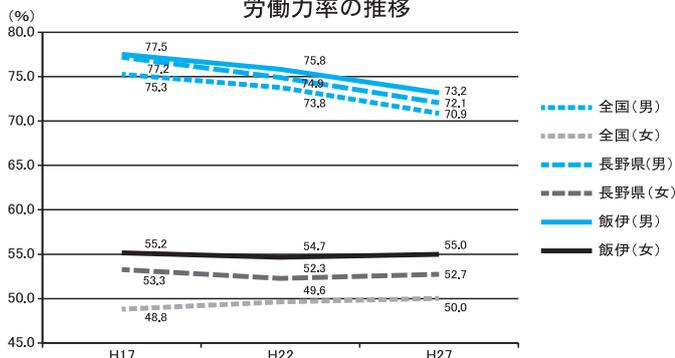
当月実績	18.8	(前月 13.8)
翌月予測	9.4	(前月 22.2)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス18.8で、前月から5.0ポイント上昇。翌月予測はプラス9.4で、前月から12.8ポイント下降している。

労働力率は、労働可能人口のうち働く意思のある人たちの比率を示す指標で、15歳以上の人口に対する、就業者数と完全失業者数を合わせた労働力人口の割合として示される。

平成17年以降の3回の国勢調査によって飯伊地域の労働力率の推移をみると、男性、女性共に、全国、長野県よりも高い水準で推移している。

労働力率の推移



当地区のみならず、全国、長野県でも、男性の労働力率は低下傾向にある一方で、女性の労働力率の低下傾向は明確ではなく、全国では却って若干上昇している。労働力率の変動は、分母となる15歳以上人口、分子となる労働力人口双方の変動によって生じるが、男性では、一貫して労働力人口の減少率が15歳以上人口の減少率を上回っている一方で、女性の労働力人口の減少率は、15歳以上人口の減少率よりも小さい傾向が見られる。

15歳以上人口減少率と労働力人口の減少率

	H17 → H22		H22 → H27	
	15歳以上人口の減少率	労働力人口の減少率	15歳以上人口の減少率	労働力人口の減少率
全国(男)	-1.9%	-3.8%	-1.7%	-5.6%
全国(女)	-2.5%	-0.9%	-1.2%	-0.5%
長野県(男)	-1.7%	-4.6%	-2.2%	-6.0%
長野県(女)	-2.2%	-4.0%	-2.2%	-1.3%
飯伊(男)	-2.2%	-6.0%	-4.6%	-6.3%
飯伊(女)	-4.3%	-5.2%	-3.3%	-2.8%

網掛けは、15歳以上人口の減少率よりも、労働力人口の減少率が小さかったもの

国勢調査では、労働力人口や非労働力人口の内訳を

幾つかに分けているが、飯伊地区の女性について内訳ごとの増減率を見ると、労働力人口における就業者の内、「主に仕事」、「家事のかたわら仕事」をしている女性の減少率が低下しているほか、「休業者」や「完全失業者」が大きく減少している。また、非労働力人口の内、「家事」をしている女性も大きく減少していた。

飯伊地域女性の、労働力人口、非労働力人口内訳増減率の推移

	労働力人口	就業者				完全失業者	
		(就業者)主に仕事	(就業者)家事のほか仕事	(就業者)通学のかたわら仕事	(就業者)休業者		
H17→H22	-5.2%	-5.3%	-2.5%	-12.6%	0.9%	17.4%	-2.3%
H22→H27	-2.8%	-2.2%	-0.8%	-5.0%	-19.8%	-5.4%	-24.8%
	非労働力人口	家事	通学	その他			
H17→H22	-3.3%	3.1%	-6.3%	-11.0%			
H22→H27	-4.0%	-20.1%	-6.1%	21.9%			

(図表は全て総務省「国勢調査」により当金庫作成)

## 機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売の前月比は、やや減少～横ばい。一部に、受注が前月比、前年比とも増加しており、景況感が好転した業者も見られた。こうした業者では先行きも上向きという。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。一部に、雇用面で不足感があるとの声。設備面では、「予定有り」「機械購入。発注済み」など積極的な声が複数聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売は、前月比、前年比ともやや増加～増加。「半導体業界は長期的に需要が伸びるサイクルに入ったと見られる」「スマホ、車載関連増産継続」「IoT、データセンター向け増産継続」「FPD関連良好」などの声が聞かれ、概ね景況感も好転している。こうした中、「過剰な増産で一時的に混乱がある。仕掛品が増加し、売上増につながらない部分がある」との声も聞かれた。こうしたことから、雇用面でも「不足。補充中」「中途採用、パート採用で数名増員」などの声が聞かれたほか、設備面でも「機械導入。稼働開始。先行きも増強」「実施済み。今後も予定」など積極的な声が多い。原材料、資材価格に関し、「アルミ、ステンレスともに上昇基調」など前年に比べて上昇している様子。一方、製品単価では、「定期的なコストダウン要請」はあるものの、当月、大きな動きは見られない。

産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、減少との声も複数聞かれるが、横ばい～やや増加との声が多い。「物流が増加し、景気上昇の気配が感じられる」「一時的なものかもしれないが、集中して動いた」「前期に比べ増収」「産業機器関連の受注残はやや増加」「ロボット関連が忙しい。各社忙しそうだ」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者も複数見られた。先行きの見方は分かれ、増加を見込む声も複数聞かれた一方で、「見積案件が減少してきている」「大口が一時ストップ。次月は苦戦するかもしれない」「中旬以降動きが悪くなったとの声も多い」「材料屋さんでも動きが悪いとの声が聞かれる」など弱含みとの声も複数ある。雇用面では、現状維持との声が多い中において、「オペレーター不足。募集中」「開発、生産技術者の増強」「増員予定」「増員」など積極的な声も少なくない。設備面では、概ね現状維持の様子も、一部に「導入。予定もある」との声。原材料、資材価格がやや上昇しているとの声は多い。製品価格に大きな動き

はない様子も、一部にやや上昇との声が聞かれた。

**建築用金属製品**の売上は、前月比やや増加、前年比は減少。「まだ弱い」ながらも「多少引合が増加」していることもあり、景況感は好転との声が寄せられた。「オリンピック関係がようやく動き出すが、金属工事が出るまでにはタイムラグがある。本格的になるのは秋口ではないか」という。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「非鉄は上昇気味」という。製品価格に関し「回復傾向」が見られるとの声が寄せられた。雇用面、設備面で積極的な声がある。

**自動車向け部品**の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、総じて景況感に動きは見られない。原材料、資材価格は、当月大きな動きはなかった様子も、先行き「輸送業者が各社値上げ傾向にあり、材料費等も値上げが予想される」こともあって上昇を見込む声がある。雇用面で、「6月から来春の新卒高校生の求人受付が始まる。最近の高校生の傾向として、地元就職する割合が増加しているようだ」との声が寄せられた。

**小型電磁機器**の販売の前月比は概ね横ばい。一部に前年比はやや減少との声もあるが、こうした業者でも景況感の悪化には至っておらず、却って受注が前月より増加していることもあり、景況感が好転した業者も見られた。原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声は多い。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

**FA関連モーター**では、販売は「稼働日数の影響で前月比減少」も、受注が「産業機械向け、車載向けともに微増で推移」しており、景況感も好転との声が寄せられた。先行きこうした基調が続く見込みという。

**光学機器**の受注、販売は、前月比横ばい、前年比は業者により増減分かれるが、景況感が好転した業者は見られない。一部に、先行き弱含みとの声も。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったものの、前年に比べると上昇しているとの声は多い。雇用面では、目下は現状維持も、先行きは「不足」「厳しくなる」などの声が聞かれた。設備面でも積極的な声が少なくない。

**電気、電子製品**では、受注、販売とも前月比増加、「新年度を迎え、従来の顧客以外から新しいタイプの商品企画が多く持ち込まれる」など景況感も好転との声が寄せられた。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上は、前月比やや減少～横ばい、前年比はやや増加との声が複数聞かれた。「消費動向にあまり変化はない」「全体的に、昨年同様か、やや落ちたというところ」「ゴールデンウィーク後の落ち込みが少なかった」「特売、定番ともに好調」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者は見られない。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子も、「運賃値上げの話が来ている」との声も。雇用面で、「現状問題ないが、人手不足が見込まれる」「複数名入社してほしいと思っているが、人手不足の影響がどの程度あるか悩んでいる」などの声。設備面では「実施中」「増設予定」などの声が寄せられた。

**水引製品**の販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばいとの声が多い。「6月からお盆用品の出荷が始まり、8月下旬までは忙しい」「5、6月は盆用品の出荷がある」などの声が聞かれ、こうしたことから多くの業者で製品在庫が増加しているほか、今後増員を予定する業者も見られた。しかし、「以前に比べると品数、金額ともに少なくなってしまうのだろうか」との声も。原材料、資材価格に大きな動きはな

かった様子。製品価格に関し「祝儀用品は値上を検討する時期に来たように思う。販売は落ち込むだろうが、新製品を開発するために利益なしに続けられない。今一步、最善の道を模索する努力を続ける必要があると思われる」との声が聞かれた。「業界に、リニア長野県駅施設に対する協力の要請があった。結構なお話だと思うが、水引の特性を活かし、かつ美しく、維持費もかからないものを作り出す必要がある。各方面の知恵を借りたい」との声が寄せられた。

**漬物**の販売は、前月比、前年比ともやや減少も、「市場動向で目立ったものは感じないが、当月は観光向け商材が昨年より動いた感がある」との声が寄せられた。原材料に関し「気候の変動もあり、原材料の調達に神経を使う」との声。雇用面で積極的な声が聞かれた。

## その他製造業

**食品関連包材**の生産は前月比やや減少、先行きも弱含みとの声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

**印刷、出版関連**の売上は、前月比減少も、「例年並みの売上」との声が寄せられた。「当社は年数経過に伴い複数の設備更新を検討していきたいと思っているが、全般にそうした声もあまり聞かれな感。先々の見込みが立てられないのかもしれない」という。雇用面で「不足感はないが、職種によって募集を継続している」との声が聞かれた。

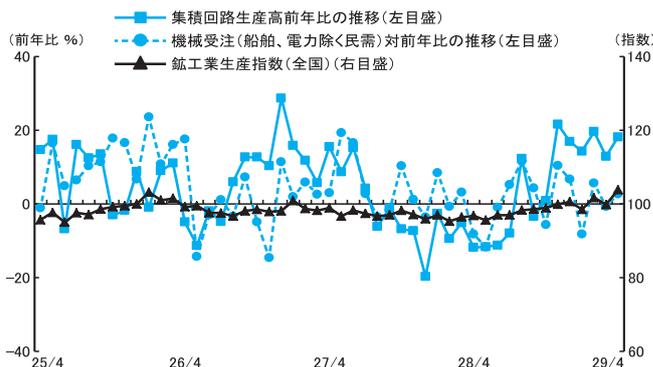
**衣料品**の販売は、前月比、前年比ともやや減少、「冬物の動きが悪かったこともあって春夏物の仕掛が少なかった上に、天候が良いせいか春物を飛ばしてブラウス、ワンピースなどの夏物に移ってしまった感」「百貨店の売上が伸びない。連休中も好天が続き入店客も少なかった。郊外のショッピングモール、アウトレットなどは好調だった様子だが、客単価が低い」などの声が寄せられ、景況感も悪化している。人員不足が依然続いているという。

**住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具**の生産は、前年比はやや増加も、前月比がやや減少しており、当月の景況感も悪化との声が寄せられた。先行きも弱含んでいるという。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

### 【企業からのコメント】

- ★元気づくり支援金の応募が少なく、3次募集までであるという。こうした支援金の利用が活発になると良いが。
- ★設備投資を実施中だが、機械屋さんが忙しく納品に時間がかかっていて、投資に遅れが生じている。
- ★当社の新規分野に動きが出てきた。
- ★当月は稼働日の関係で前月より売上減少。

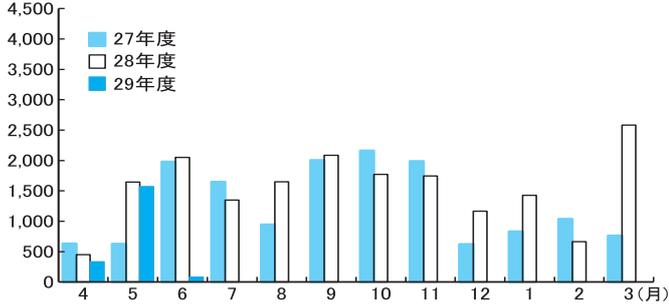
## 集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



# 建設業

## 月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI	6.7	(先月 -38.5)
翌月予測DI	-18.8	(先月 -7.7)

## 官公需

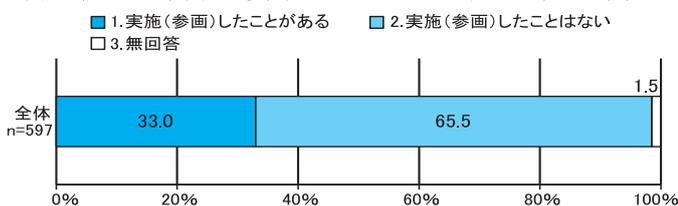
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.6億円で、前月比は369%増加も、前年比は5%減少している(6月5日調査時点。電設工事、他地域業者落札分などを含む)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減相半ばする。「公共工事が少し始め、若干元気になっている」「当社は、繰り越し工事、民間工事などで下請、外注をお願いしている状況」「今年度は予想よりも順調に受注」「追加受注の動きは鈍いが、年度当初の契約高は前年より増加」などやや増加との声も複数あるが、こうした業者でも「工事件数は少ない状況に変化はない」「先月よりは良くなった感はあるが、全体では例年ほど忙しくはない」「発注は例年通り低調な時期。発注が待たれる」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者は多くはない。また、やや減少～横ばいとする業者からは、「今年は例年にないほど新規案件が少ない様子」「下請け工事等小口工事で何とかしている状況。6月から大口が始まる。しかし、仕事は薄い」「社会資本交付金など国の補助金が、オリンピックの影響等で地方への配分が減っていることもあって、発注予定物件の動向が不明瞭で、場合によっては件数や予定金額にも影響しそう」「公共主体の会社は仕事が少ない模様」などの声が寄せられた。

「リニア関連工事に動きが出ている」「リニアも少しずつ動き出している」というが、これに関し「単価の問題もあるのか、下請けや孫請けを好んで請け負う業者は多くはないように感じる」との声も。

雇用面では、「施工職員募集中」「技術者募集中」などの声が聞かれたほか、「現状過剰も、長期的には不足感がある」などの声が寄せられた。

就業者の減少や高齢化が顕在化している建設業では、若手人材を確保し、技術者として育成していくことが課題と言われる。建設経済研究所のアンケート調査によると、子ども、学校の生徒や一般の人を対象とした現場見学会等を開催したことがない企業が全体で66%あり、人手不足、現場の危険、工事、企業の規模の子ども、学校の生徒や一般の方を対象とした現場見学会、出前講座などを実施(あるいは、実施に参画)したことはありますか?(1つ選択)



(資料：(一財)建設経済研究所)

ささから実施したいとは思わないとする企業も少なくないという。こうした中、長野県建設業協会飯田支部では、2級土木工事・建築施工管理技士の資格取得を目指す地元高校生を対象に講習会や試験会場までのバスの手配などを全面サポートしたという。

## 民需

当地区の4月の住宅着工戸数は32戸。前月比54%減少、前年比も14%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も見られ、こうした業者では雇用面で不足感があるという。しかし、「新築住宅はポツポツあるのだが、他は小さいものが少しずつ入ってくるだけで仕事量は寂しい」「受注残はそう変わらないが相対的に少ない。完成工事も小さい」「リフォーム工事のみ」「民間は大型工事が少なく、戸建住宅も停滞」など、景況感の悪化には至らないまでも、好転していないとの声が多い。

「リニア開通に伴う建て替えは、来年3月頃に買取価格が提示されるとのことで、それまでは動きようがない感じ」との声が寄せられた。

## 建設資材

塗料等建設資材の売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばいも、景況感の好転には至らないとの声が聞かれた。雇用面で不足感があるという。

鋼材の売上は、前月比、前年比とも増加も、「最悪だった昨年に比べれば良いものの、売上動向は決して良くない。特に鉄工所は仕事量が少ない状況が続いている」「製造業には良い流れもあるようだが、建築系は不調が続いている」など景況感の好転には至らないとの声が寄せられた。鋼材価格に関し、「特殊鋼、二次製品は軒並み値上げされているが、一般鋼材は流通が不調でメーカーの値上げに追随できず、価格転嫁が遅れている」という。

生コンの売上は、前月比、前年比ともに業者によって増減分かれる。村部の業者からは、「出荷量がなく低迷。工事受注量がなく厳しい状況で、見通しも立たない」など景況感の悪化を伝える声が寄せられた一方、景況感の好転に至らないまでも、「5月の出荷量は回復。三遠南信自動車道、砂防工事、老人福祉施設建設工事などが主な出荷。リニア関連の出荷も前月とほぼ同量の出荷があった」などの声も。

骨材等の売上は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も好転との声が寄せられた。もっとも、「公共工事の発注が少なく建設業者の手持が少ない。前月や前年同月よりは多少良いが、先行きが危ぶまれる」「三遠南信自動車道工事は間もなく発注になるのでは」などの声が寄せられた。

### 【企業からのコメント】

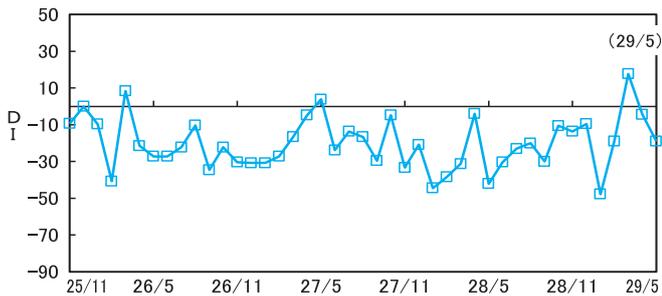
- ★地方は概ね苦境。良いのは都心部のみ。
- ★民間建築主体の会社、繰り越し物件を手掛けている会社は、少ないながらも仕事を確保している模様。

### 住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

5月	○下伊那地方事務所
	新築 11件 (前年 5件)
	増築 7件 (前年 7件)
	○飯田市役所分
	新築 21件 (前年 16件)
	増築 1件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI -19.0 (先月 -4.3)

翌月予測DI -10.0 (先月 0.0)

## 商業

食品の売上は、前月比やや増加との声が多いが、景況感の好転には至らない。前年比は減少との声が複数。「顧客の高齢化で買い物客の減少が目立つ」「全体的に既存店売上は減少傾向に見える。特に総合スーパーは減少気味」「競合店の店舗改装により客数、売上前年比マイナス」「毎日の売上が少ない」などの声。仕入価格の騰勢が続いている様子。一部に「今年度の中途採用計画あり。複数名」「採用活動強化」などの声。設備面でも積極的な声が複数聞かれた。

### 【青果卸売市場】

売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい。

野菜は、「前半のゴールデンウィークは天候が良く、人気の高い山菜類は、遅霜がなくて入荷量も多く、価格も高値で好調な販売。野菜全体では入荷量5%増、価格は3%安だった」との声。

果実は、「終了しつつある苺の出荷が前年より14%多く、晩橘類もほぼ前年並みの販売。しかし、西瓜が品薄状態で入荷量が少なく高値だった。果実全体では入荷量10%増の価格は11%安」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感の悪化には至らないとの声。先行きはやや増加を見込んでいるという。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。「家庭紙の値上げ発表以後欠品が続いているものもあったが、最近では十分流通している。値上げも一部に止まっている」「配荷してもなかなか売上にしない」などの声が寄せられた。

電化製品の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい、前年比は業者により増減分かれる。「売上は立っても現金がすぐに入らない」「産業用太陽光発電を中心に売上が伸びた。LED照明も良く出ている」「防犯カメラの設置工事が増えていることに加え、5月から気温が上がり、小型エアコンの売上が好調」などの声。

OA機器の売上は、前月比減少、前年比やや増加。「例年のことながら夏場は厳しい時期だが、顧客とのコンタクトは絶やさないようにする」「ランサムウェア対策などセキュリティ商材も注力する必要がある」「今後、一部メーカーのスチール製品価格が値上げされる予定」などの声が寄せられた。

衣料品の売上は、前月比やや減少、前年比は業者により増減分かれる。景況感も分かれ、「隣接道路通行止めの影響で売上減少。他業種でもほぼ同様の影響を受けている業者も多数ある様子」といった事情もあってか、「来店数、客単価とも大きく減少。消費意欲が大幅に減退している感」との声が聞かれた一方、「前月は学販ものがあったが、今月は通常に戻った。衣替えの時期だが、業種問わずなんとなく全般に良くなっている感」などの声も寄せられた。

娯楽用品では、「ゴールデンウィークの影響で前月比やや増加。前年比は同じ」との声。

土産物関連の売上は、前月比やや増加～増加。前年比は減少との声も。仕入価格やや上昇との声のほか、雇用面で不足感があるとの声が聞かれた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比3%増加も、前年比は8%減少。中古車は、前月比22%減少、前年比も4%減少した。4月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比49%減少も、前年比は18%増加。中古車は、前月比50%増加、前年比も19%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。「新車台数は前年より減少したが、中古車が増加。例年5月連休明けから商談件数は減少する」「高額中古車の仕入が多かった」などの声。「当地区で好調という話は聞かないが、自動車の登録台数は上がっている。良い所は良いのだろうか」との声が聞かれた。

## サービス業

市内料理店の売上は、前月比業者により増減分かれる。一部に、前年比は減少との声も。「連休中天気が良く当店にはマイナス。全般にあまり動きがないように感じる」「海産物の仕入では、魚種によっては少ないものもある」「近隣店舗のセットメニューの影響がある」などの声。

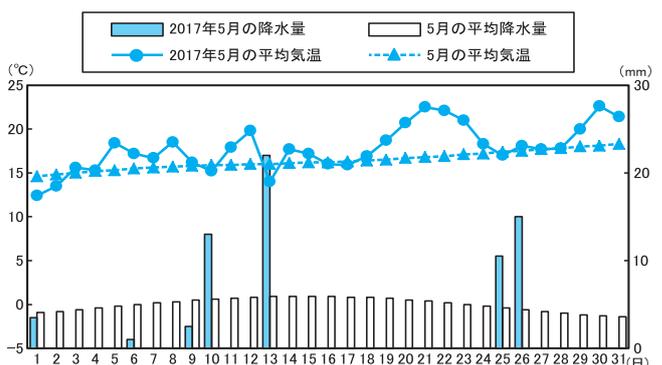
昼神温泉の売上は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。「天候のお蔭で桜、花桃の開花期間が長く、前年より集客はあった」などの声が寄せられたが、多くの業者で景況感の好転に至っていない。先行きは、「6月は例年通りナイトツアーが休みで、特にウィークデーの集客が少なそう。依然厳しいものがある」との声も。「接客係不足」「人員は依然足りない。募集中」など雇用面の不足感を指摘する声も多い。「IT対応」など一部に設備面で積極的な声も。

タクシーの売上は、前月比やや減少も、前年比は増加との声が寄せられた。「夜間需要に上向き感を感じられない」「同業でも労働力不足で稼働率が落ちているとの声が聞かれる。働き方改革の中で、乗務員の拘束時間とサービスとのバランスが大きな問題になりそう。事業者として労働環境の改善の必要性を感じている」などの声が寄せられた。

### 【企業からのコメント】

- ★適正な商品在庫の見通しを立てている。
- ★今年に入って案件は出ていて業績も伸びているが、いつまで続くかは分からない。
- ★営業マン一人あたりの利益の目標をクリアする重要性を訴えている。縮小経済の中、良い流れは自ら作らなければならないと思う。べら棒に儲けようとは思わないが、利益体質を保てる事業運営は心掛けたい。

飯田の気温と降水量



## 変化する観光

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課  
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

「モノ消費からコト消費へ」という言葉をニュースや新聞で多く見かけるようになりました。経済産業省の平成27年度地域経済産業活性化対策調査報告書では、「モノ消費」とは個別の製品やサービスの持つ機能的価値を消費すること、「コト消費」とは製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを楽しむのみでなく、個別の事象が連なった総体である「一連の体験」を対象とした消費活動のこと、と説明しています。簡単に言えば、「モノ消費」は、商品・サービスの機能に価値を感じて使うこと、「コト消費」は、商品・サービスによって得られる経験に価値を感じて使うことでしょうか。

モノからコトへの消費への変化の背景には、日本の消費の成熟化が考えられます。戦後の3種の神器といわれた「白黒テレビ」「洗濯機」「冷蔵庫」、高度成長期の3Cといわれた「カラーテレビ」「クーラー」「カー」を各家庭がこぞって購入した時代が過ぎ、機能的価値を付けた個別の製品の購入はもはや充足されてしまっている状況でもあります。

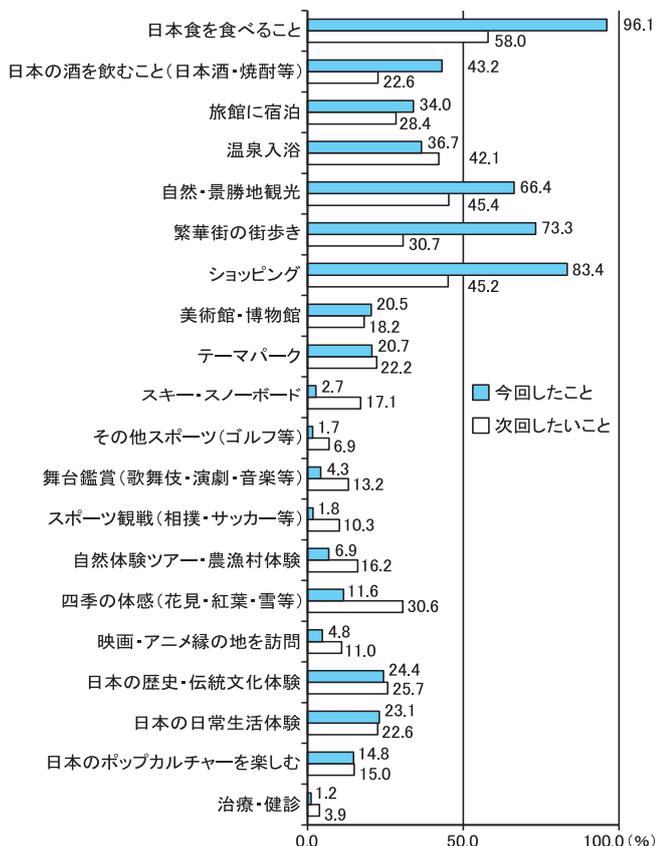
これでは景気のパロメーターである個人消費も、政府の期待どおりとはなかなか行かないでしょう。

「モノ」から「コト」への消費は訪日外国人観光客（インバウンド）にも現れているようです。

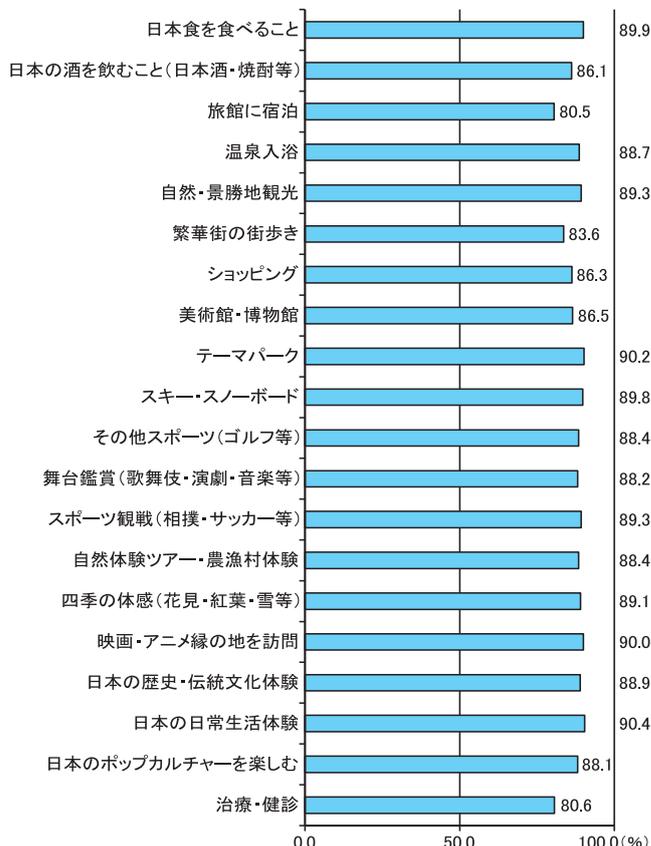
2017年、外国人観光客は2,000万人を超え、その消費額も自動車部品産業に匹敵する3.5兆円に達し、政府は、2020年の東京オリンピックには、4,000万人を目標としています。中国人観光客の爆買い報道が流されていたのはつい1、2年前のことでしたが、今、外国人観光客は日本に何を期待して来日するのでしょうか？

下図のとおり、観光庁による外国人旅行客の日本滞在中の行動調査があります。

図表1 今回したこと、次回したいこと  
 (全国籍・地域、複数回答)



図表2 今回したことのうち満足した人の割合  
 (全国籍・地域、複数回答)

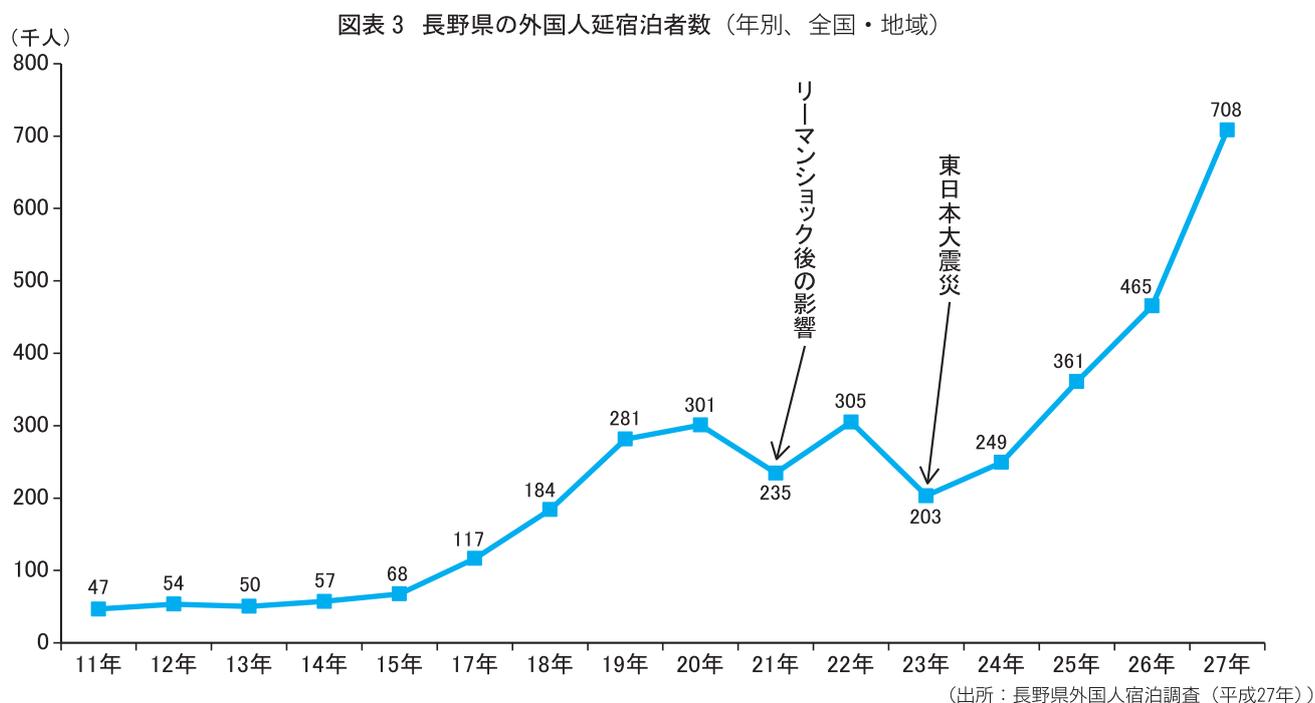


(出所：観光庁「訪日外国人消費動向調査(平成28年暦年)」から抜粋)

依然日本でのショッピングは83.4%と高位置にあります。ショッピングと回答した方に、「次回したいことは？」と問うと、45.2%に半減しています。一度目の来日目的はショッピングでも、二度三度と来日する、いわゆるリピーターは、ショッピング以外の参加や体験をする方向にあると報告書はコメントしています。ここに掲載はしてありませんが、国別調査で米国が「日本の歴史・伝統文化の体験」を訪日の目的に挙げる割合がアジア諸国の倍になっていて、国によって違いが見られます。また、ホテルよりも日本独特の旅館の方が宿泊数が多いのも「なるほどな」と頷けます。

テレビで「YOUは、何しに日本へ？」という番組があります。この番組は、日本の空港に到着した外国人旅行者が何の目的で日本へ来たのか質問して、面白い目的であれば密着取材する番組ですが、大変面白く、私は毎週見えています。番組では、日本武術修行、尺八の弟子、祭りやイベントへの参加等々、日本の文化や歴史を経験する目的で来日する外国人が多いことに驚きます。日本人も、有名な観光地を見て、たくさんのお土産を買った昔の観光から経験や体験観光にシフトしていますが、外国人旅行者も、日本人の日常の営みや自然を自ら体験したい「モノ観光」から「コト観光」への方向へと流れているのでしょうか。

長野県への外国人旅行者の統計では、年々、外国人の延宿泊者数が伸びています。



北信・中信を中心に、スキーや登山、四季の体験をする教育旅行（小学校・中学校・高校等）も多くなってきており、自然豊かな長野県には「コト観光」の資源は沢山あって、今後の期待も大きいと思います。

一口に外国人旅行者といっても、言葉の違いもありますし、旅行者の国や旅行目的によって私たちの対応も難しいこともあると思いますが、「おもてなし」は世界共通で、「意外と対応できてしまう」という話を旅館業者から聞きます。飯田・下伊那地域もリニア開通を10年後に控え、旅館、ホテルの宿泊施設に限らず飲食店やサービスの外国人客対応も今から準備する事が肝心ではないでしょうか。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

## 長野県が試算

# リニア新幹線品川駅・長野県駅間の料金は7,500円

## ～ リニア新幹線による通勤・通学利用への観点 ～

平成29年6月15日「リニア中央新幹線を活かす伊那谷自治体会議」が県飯田合同庁舎で開催されました。会議では県より「東京方面への移動手段と金額の比較」が説明され、「リニア長野県駅→品川駅は概算金額7,500円」と金額が示されました。当金庫「リニア中央新幹線に係る調査報告書」（以下「リニア報告書」、平成28年3月発表）においても料金を計算しておりますが、同様の結果となっています。

### 通勤・通学利用のための条件は

牧野飯田市長は市議会一般質問の答弁で、東京駅から同様の時間距離（約45分）に位置する栃木県小山駅（東北新幹線）、埼玉県本庄早稲田駅（上越新幹線）の例を挙げ、リニア長野県駅から東京圏、名古屋圏への通勤・通学利用の可能性に言及されました。当課でもかつて「東京から新幹線で45分の街」として両駅を訪問し、新幹線開通後の可能性を検証しました（本庄早稲田駅：「飯伊地区産業経済動向」No.431（H27年2月）、小山駅：「同」No.433（H27年4月）。その結果、リニア新幹線の通勤・通学利用はたいへん有望と結論づけました。

リニア長野県駅での通勤・通学の利用が進むための条件について検討すると、

#### ① リニア駅から至便の住宅地

首都圏・名古屋圏からリニア長野県駅までは短時間でも、リニア駅から自宅まで時間がかかれば意味がない。リニア長野県駅の近距離区域でどれだけ優良住宅地を提供できるか。住宅基盤整備、開発など官・民に亘る取組みとなる。小山市では小山駅前の市有地に認可保育園を併設した高層マンションを建設する事例がある。

#### ② 駐車場の提供は

通勤者の駅までの交通では、当地域は自家用車利用の多い本庄早稲田駅のタイプと考えられるが、パークアンドライド駐車場の料金はどうか。本庄市では「当地は駐車料金の相場が安く、新幹線駅前駐車場でも月額1万円は高いクラス」（本庄市役所聴き取り）。果たして長野県駅での料金はどの程度になるか。

#### ③ 運賃・定期券代は

「東京から45分」といってもリニア長野県駅は小山・本庄早稲田駅より実キロ・営業キロは長く、上欄の上田駅にはほぼ近い。従って乗車券料金、定期券料金はかなりの金額となってくる。それでも飯伊地域に移り住んで新幹線通勤に踏み切っていただくだけの条件づくりを地域として考える必要がある。

（「飯伊地区産業経済動向」および「リニア報告書」は、しんきんHPに掲載しています。）

<参考> 新幹線通勤の料金目処

図表Ⅲ-1-13 新幹線料金および定期券代

駅名	営業キロ	片道乗車券代 (特急料金含む)	通勤定期券 (1カ月)	通学定期券 (1カ月)
佐久平駅	164km	6,340円	132,830円	94,360円
上田駅	189km	6,670円	144,310円	100,310円
リニア長野県駅 (推定値)	実キロ 179km ①営業キロ 226km	②約7,500円	③172千円以上	④119千円以上

リニア対策室調べ

注① リニア品川駅～長野県駅間の営業キロは示されていないため、品川・名古屋駅間 実キロ 285km、営業キロ359km、品川・長野県駅間 実キロ 179km から、品川・長野県駅間営業キロ=179km×359km÷285km=226km

注② リニア料金は品川・名古屋間のぞみ料金にプラス700円との料金目処が示されているため、11,090円（乗車券・特急券計）+700円=11,790円  
11,790円×226km÷359km=7,500円（①、②：鉄道ジャーナリスト梅原 淳氏のご教示による）

注③④ JR東海の定期券料金計算方式が示されていないため、参考に東海道新幹線の東京～掛川駅間（営業キロ229km）の料金を示したが、リニア新幹線は東海道新幹線料金に割り増しになるのを上回る。

飯田信用金庫「リニア中央新幹線開通に係る調査報告書」（平成28年3月）131頁

本年6月の本部機構改革に伴い、これまでの「総合企画部 リニア対策室」は「地域サポート部 リニア対策課」となりました。引き続きのご愛顧をお願い申し上げます。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）

## 斜視 (十十メ) 力のすすめ (33)

しんきん南信州地域研究所  
主席研究員 井上 弘司

昭和49年に施行された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」があり、平成29年1月現在、全国に225品目あります。「的」とは、「工芸品の特長となっている原材料や技術・技法の主要な部分が今日まで継承されていて、さらに、その持ち味を維持しながらも、産業環境に適するように改良を加えたり、時代の需要に即した製品作りがされている工芸品」という意味で、長野県では信州紬、木曾漆器、飯山仏壇、松本家具、内山紙、南木曽ろくろ細工、信州打刃物が指定されています。

法律では、日常生活に使用されるもの(冠婚葬祭や節句など一生あるいは年に数回の行事でも、生活に密着し一般家庭で使われる場合は、「日常生活」に含む)、製造過程の主要部分が手づくり(一人一人の作り手の技量、精度に関わりが強く、技法は原材料の選択から製法に至るノウハウの歴史的な積み重ね)であること、さらに地域で、一定規模の製造者があり、地域産業として成立していることが指定されるために必要としています。残念なことに「飯田水引」は入っていませんが、水引が伝統工芸品であることに変わりありません。

### ■絶滅寸前の伝統工芸

財団法人伝統工芸品産業振興協会の調査によると、1979年に28万8千人いた伝統工芸職人が、2012年になると6万9千人、生産額もピーク時の5,400億円から1,040億円まで落ち込んでいます。しかしこれは直接的な数値に過ぎず、その伝統工芸に関連する業態も同時に衰退していることが分かってきました。日本の英語表記は「Japan」ですが、「漆」の技術や、それを使った「漆器」が、日本を代表する伝統技術の意味で「japan」と言われることもあるとデービット・アトキンス小西美術工芸社長は語っています。ところが、その漆が、国内の漆の年間使用量が50トンある中で、国産はたった1トンしかありません。

行政などの公的機関が、そのモノに焦点を当て、周辺の関連業種に目を向けていないことが問題です。公的補助金は、消え行く文化を「保護する対象」として見ているだけで、「残すべき産業」として何とかしようという視点が希薄なのです。

例えば「漆」では、最後の仕上げをする塗師だけを育成しても本物になりません。漆器であれば、「ろくろ」の技術者、漆かきの技術、特殊な漆かきの道具を作る「野鍛冶」の存在が大切です。

ダルマの生産には「本ニカワ」が不可欠です。しかし国産は少量で、長期間の品質が保たない中国産を使用せざるを得ない状態です。喬木村には和傘がありますが、和傘や提灯に欠かせない「柿渋」も同様です。

繊維業界でも、原材料生産が、外国か、安く上がる化学製品に取って代わられてしまい、ほとんどが伝統工芸館などの展示品か体験観光程度となり、産業としては成り立たなくなっています。かつては絹と同様に大産業であった「木綿」も、本染め職人の不足や染めの材料が科学品で良い色が出ない、織機の部品が無いなど周辺産業の廃業による問題が出ています。

絶滅寸前のこれら国産の素材や伝統技術が国の重要な文化財に多く結集されていて、指定されている神社仏閣などの修復に影を落としていることも、言うまでもありません。

日本の伝統技術を守るために一つの業態を支援すれば解決するという短絡的な考えでは、振興どころか守ることさえできず、様々な形で人が介在してきた「本物」が、その価値より経済に負けて衰退の一途を辿ってしまうでしょう。

## ■本物の茶筌（ちゃせん）の未来

訪日外国人が日本らしさを感じる日本の茶道ですが、その道具の未来はどうでしょうか。

茶筌は茶道において今や絶対必要な道具の一つです。元々「わび茶」の創始者である村田珠光が、茶道にふさわしい“茶を攪拌する道具”を奈良の鷹山宗砌（たかやま そうせつ）に依頼してできあがったものです。



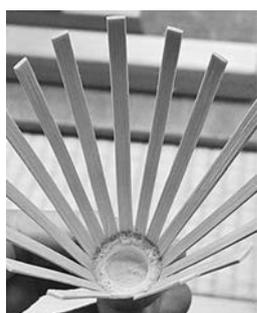
茶筌に使用する淡竹の寒干し風景

「茶せん」は一般的には「筌」の文字を使用しますが、高山茶筌は「筌」を使用します。筌とは「ささら」のことで、昔は釜や鍋を洗う道具だったため、茶を点てる道具として、ことさら区別したそうです。

わび茶はその後、千利休がほぼ完成しますが、宗砌も日夜研鑽して作り上げた茶筌を後土御門天皇へ献上しました。この時宗砌は「鷹の風切羽のしなやかさを竹に写してみました」と説明したところ「高穂」という銘を賜り、鷹山家の秘伝としました。高穂茶筌が誰もが欲しがらるブランド品として確立していく中で、領主も高穂に因んで「鷹山」を「高山」と改め、その高山氏が絶えた後も16名の家臣が一子相伝で伝え、現在の生駒市高山の高山茶筌として現在に至っています。



薄皮を削ぐ



16分割にする



さらに8分割



薄く削る「味削り」



仕上げ

500年の歴史を刻む「高山茶筌」は、織田信長の時代に時の領主が領地没収の憂き目に遭うも、豊臣秀吉が催した北野の大茶会では200本の茶筌を献上するなど茶筌の大ブランドになり、今では全国の茶筌の9割を生産しており、現在の諸流派のほとんどに納入しています。

各流派が使用する茶筌の竹は淡竹（はちく）が主流ですが、表千家では「煤（す）竹」武者小路千家は「黒竹」が主に使用されます。

問題は代表格の千家が使用する「煤竹」です。

煤竹は茅葺き屋根の内部骨組みに使われたもので、長年囲炉裏の煙に燻されたものが良いのです。お気づきのようによ茅葺き屋根の家自体が無くなりつつあり、今後本物の材料の不足が懸念されます。

国指定伝統的工芸品である「高山茶釜」もこのように材料不足という危機がありますが、さらに歴史の重みが脆弱性の要因となっています。近年、茶道人口の減少や100円ショップなどで安価な輸入物が売られることで、生産量は1970年の半分に落ち込み、かつては50軒あった工房も激減し、高山茶釜生産協同組合には18の製造業者が所属するに過ぎなくなっています。さらに60代70代が職人の半分以上を占め、若手は30代が1名のみといった状況で、担い手不足の暗雲が立ち込めています。いわゆる工業製品と違い、職人個々の技術で支えられた手仕事であることや伝統を守るためにイノベーションが起きづらいことが最大の要因でしょう。

## ■文化も手仕事も観光資源

カナダ・ケベック州に本部を置くエコノミュゼ・ネットワーク・ソサエティ(ENS)という非営利団体があります。1992年に発足後、英国やスウェーデンなどの国々に拡大中です。この「エコノミュゼ」とは、エコミュージアムとか地域まるごと博物館と言えれば理解していただけたと思います。南信州でもずいぶん昔からこうした構想もありましたが、理念だけで具体的に一步前進ができなかったように思えます。

カナダの「エコノミュゼ」は、工芸や農業、食品加工ほか各地で良質な手仕事に取り組む職人や生産者を前面に打ち出したコンソーシアムで、参画するメンバーは木工や陶芸、革製品などの作家やチーズ工房、りんご農家など多様です。

ENS本部は、それら職人をサポートし、地域の手仕事を守り、次世代へ繋げていくことをミッションに活動しており、ENSの一員には、手仕事を見せる場所があることや観光客が体験できる、手仕事の説明展示することを条件としています。

人こそ最も大切な観光資源と考えるENSは、手仕事を営みとする職人たちを重視していますが、それは人間国宝でも特別な名工でもなく、生業の現場を“解説し見せて体験”させる仕組みを作っているのです。

これだけ書けばお分かりと思いますが、南信州においてENSの役割を果たしているのが「南信州観光公社」です。南信州の歴史文化をベースに、日常の営みを体験してもらおう観光を推進することが、未来への地域づくりになるでしょう。

執筆者 井上弘司(いのうえ ひろし)：1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選(国土交通省)、地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)、地域再生マネージャー(ふるさと財団)。

「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを目指して、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く解放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002  
■在籍研究員 井上 弘司 安藤 隆一  
■TEL 0265-59-7701  
■FAX 0265-59-7701  
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp